

## 在宅看護学演習

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 岩渕 光子 教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座、看護専門基礎講座		
対象学年	3	区分・時間数	演習 22.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

在宅療養者の居宅を訪問する技術を学び、療養者や家族の生活様式や価値観を尊重した態度を習得する。その上で、療養者の必要性に応じた日常生活援助の方法を学び、その基本的技術を習得する。また、医療的ケアの必要な療養者に対しては、病状の把握や医師の指示を確認した上で、医療機器の管理や家族が行うケアの手技を指導することを理解する。実習室（居宅）等を活用した演習を中心に行い在宅看護方法の実際を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

在宅療養者に対する訪問看護に必要な知識、技術を学修することにより、日常生活援助、医療機器の管理や家族・介護者への指導といった訪問看護技術を習得できるようになる。また、在宅看護過程の特徴を捉えた看護過程を展開することで、在宅療養者や家族の生活様式や価値観を尊重した支援の重要性や地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携の重要性を認識できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：3, 4, 5, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 在宅療養者宅や施設への訪問を想定したロールプレイができる。
2. 在宅療養者および家族に対して、日常生活援助を実施できる。
3. 医療的ケアの必要な在宅療養者と家族への支援について説明できる。
4. 在宅看護過程の特徴を捉えた看護過程が展開できる。
5. 訪問看護ステーションの具体的な機能、役割が説明できる。
6. 地域で生活する人を支える多職種・多機関の機能、役割と連携のあり方を説明できる。

・ 授業日程

(矢) マルチメディア教室、マルチ 2-A・B 実習室、マルチ 3-B 実習室、マルチ 4-A 講義室

【演習】

月日 (曜) 時限	講座(学科) 担当教員	授業内容/到達目標
4/18 (火) 2 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	訪問看護に必要な身だしなみ、態度 ・在宅療養者宅への訪問看護における信頼構築のための服装、身だしなみ、マナー、言葉遣いが説明できる  【事前学修】看護学生として在宅看護学実習における服装、身だしなみについて考えてくる 【事後学修】在宅看護の事例を理解できるよう身体面、社会資源サービスなど、理解が不足する内容を調べる
5/11 (木) 1 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	在宅療養者、家族の看護過程 1 ・在宅における看護過程の展開と特徴を説明できる ・訪問看護を展開するために必要な様式（居宅サービス計画、訪問看護指示書等）から内容を理解することができる ・担当する事例の在宅療養者、家族の状況を述べるができる  【事前学修】教科書 地域・在宅看護論②p22～31 を読み、概要を把握しておく
5/11 (木) 2 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	在宅療養者、家族の看護過程 2 ・在宅看護の特徴を捉えて、担当する事例の情報収集、アセスメントができる  【事後学修】アセスメント結果の関連を考え、看護課題・ニーズを抽出する
5/18 (木) 1 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	在宅療養者への訪問技術（ロールプレイ） ・訪問にふさわしい服装の準備ができ、訪問時のふるまいを意識し、自己紹介、玄関先での挨拶、訪問目的を述べることができる  【事前学修】第 1 回の講義を復習し、訪問時のふるまいを考えておく
5/18 (木) 2 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	在宅療養者、家族の看護過程 3（グループワークと発表） ・担当する事例から抽出された看護課題・ニーズから看護計画を立案できる  【事後学修】看護計画を基に、次回からの援助技術演習が実施できるようにしておく

<p>6/8 (木) 1限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 赤井 純子 助教</p>	<p>在宅療養者が利用する医療福祉機器の理解 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療機器の管理を理解し、看護の留意点を説明できる（在宅酸素療法、在宅人工呼吸器療法）</li> <li>・在宅福祉用具の種類と管理方法および看護の留意点が説明できる（エアマット、介護リフト等）</li> </ul> <p>【事前学修】配布する事前学修用紙（在宅酸素療法、在宅人工呼吸器療法、視線入力装置、在宅福祉用具等に関する学修）に取り組む</p>
<p>6/8 (木) 2限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 赤井 純子 助教</p>	<p>在宅療養者が利用する医療福祉機器の理解 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療福祉機器メーカー（福祉用具専門相談員）の役割を理解し、多機関・多職種との連携方法を説明できる</li> <li>・在宅において医療福祉機器を利用している療養者・家族への健康危機対策（災害など）を説明できる</li> </ul> <p>【事後学修】演習を通じて学んだことをまとめ、次回講義時に提出する</p>
<p>6/15 (木) 1限</p>	<p>看護専門基礎講座 遠藤 龍人 教授 地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 赤井 純子 助教</p>	<p>在宅における援助技術 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経腸栄養剤の種類と特徴を理解し、在宅における経管栄養法の看護が説明できる</li> <li>・経管栄養シミュレータ体験により、胃瘻管理が実践できる</li> </ul> <p>【事前学修】教科書 地域・在宅看護論②p145～150を読み、演習に必要な看護の要点をまとめておく</p>
<p>6/15 (木) 2限</p>	<p>看護専門基礎講座 遠藤 龍人 教授 地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 赤井 純子 助教</p>	<p>在宅における援助技術 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する事例の看護計画に基づいた訪問看護の実践計画が立案できる</li> <li>・在宅療養者宅への訪問について、必要な準備ができる</li> </ul> <p>【事前学修】教科書 地域・在宅看護論②p264（社会人のマナー）を読み、概要を把握しておく</p>
<p>6/21 (水) 3限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教</p>	<p>在宅における援助技術 3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅におけるフィジカルアセスメントができる</li> <li>・摘便モデルによる体験により、摘便が実践できる</li> <li>・在宅における服薬管理の支援を説明できる</li> </ul> <p>【事前学修】教科書 地域・在宅看護論②p78～83を読み、演習に必要な看護の要点をまとめておく</p>
<p>6/21 (水) 4限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教</p>	<p>在宅における援助技術 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅の療養環境に応じた日常生活援助(排泄、清潔等)が実践できる</li> <li>・在宅における物品の工夫が実践できる</li> </ul> <p>【事前学修】教科書 地域・在宅看護論②p84～87を読み、概要を把握しておく。演習に必要な看護の要点をまとめておく</p>

6/29 (木) 3限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	対象に応じた在宅看護の展開：（グループワークの発表） ・他のグループの事例の在宅看護過程が説明できる ・各事例の在宅療養者と、その家族の生活上の課題を説明できる ・各事例の療養者の状況に応じた在宅看護活動の実際を展開できる  【事前学修】発表準備
7/5 (水) 3限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	在宅看護における連携 1 各事例の看護過程へフィードバック ・地域で生活する療養者・家族を支える社会資源を列挙することができる ・訪問看護ステーションと高齢者施設等の連携における看護の役割を説明できる ・地域における多機関・多職種との連携を理解し多職種会議の目的、方法を説明できる
7/5 (水) 4限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	訪問看護ステーション実習に向けて（ゲストスピーカー） ・訪問看護ステーション運営上の留意点を説明できる ・ケアマネジメント過程におけるサービス調整方法を理解し、訪問看護職の役割を説明できる ・地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割を考える  【事前学修】訪問看護ステーションに関連する法制度、訪問看護のサービスのしくみの要点をまとめておく
7/12 (水) 2限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	在宅看護における連携 2 ・各事例の今後の社会参加や QOL の視点を予測することができる ・各事例のサービス担当者会議を開催する際の目的・招集職種とその役割についてグループ内で意見交換することができる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論 ②在宅療養を支える技術	臺 有桂 他編	メディカ出版	2022
教	ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論 ①地域療養を支えるケア	臺 有桂 他編	メディカ出版	2022
参	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤	河原 佳代子 他	医学書院	2022
参	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践	河原 佳代子 他	医学書院	2022
参	地域・在宅看護実習ハンドブック	尾崎 章子 編集	中央法規	2021
参	地域・在宅看護（看護判断のための気づきとアセスメント）	岸 恵美子 他	中央法規	2022
参	関連図で理解する在宅看護過程 第2版	正野逸子・本田彰子	メヂカルフレンド社	2021
推	強みと弱みからみた在宅看護過程	河野あゆみ	医学書院	2018

・成績評価方法

定期試験 70%、グループワーク・指定した提出課題 30%の合計 100%にて評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、事前学修した上で演習に臨むこと。また、在宅看護学概論、在宅看護方法論で学んだ内容を復習して演習に臨むこと。演習終了後は、学んだ内容をまとめ、理解が不足している内容は、自ら調べる。事前学修・事後学修は、各回 30 分以上を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

- ・指定した演習課題については、原則として講義時間内に提出することを求める。  
なお、提出された課題については、内容に応じて講義等で適時フィードバックする。
- ・適宜、授業中に解説した資料等を WebClass に掲載するので、確認すること。
- ・試験のあとは、WebClass に必要な解説を掲載する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援  
看護師（別表 3）：統合分野 在宅看護論

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
演習	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	スライド投影
演習	書画カメラ（P-100）	1	演習および学生のグループ発表時資料投影
演習	DVD（ブルーレイおよび一般 DVD）	1	講義時資料投影
演習	経管栄養シミュレータ器具セット	7	胃瘻
演習	摘便モデル	2	摘便